



「2学期のはじめに」

今夏は例年よりも酷暑日が続きました。そのような夏休みを乗り越えて、本日、元気に登校したみなさんと再会し、2学期を迎えられることに感謝します。

1学期終業式で、夏休みの計画が「三日坊主」に終わらないように、ドジャーズの大谷選手が高校生のときに作成したマンガラートを例にあげて話をしました。自分のマンガラートを作成しなくても、夏休みの1日の生活を記録に残しながら、自分の脳に意識させて頑張ってもらいたい、と。

8月9日の神戸新聞「若者 Box 席」に本校3年生の投稿文を見つけました。タイトルは、「受験生の夏に悔いなく」。1・2年時とは違った夏休みにしたい、勉強で成果をあげて親孝行したい、との思いから「夏を乗り越えて夏を制す」を目標に、勉強に励む夏休みにしよう、という決意をこめた内容でした。みなさんの夏休みの生活はいかがでしたか？

この夏の各部活動での大会やコンクールの成績は、非常に立派です。夏休みに各部で頑張っている山中生の様子は、顧問の先生方から聞いています。なかでも全国中学校体育大会陸上競技の部、400m男子で優勝した知識 航作さんは山陽中学校の名前を全国各地に届けてくれました。また、本校の部ではありませんが、クラブチームで出場した濱岡 理愛さんは、同大会ソフトテニス競技の部、女子個人戦で全国5位に入賞しました。最後の大会で引退した3年生だけでなく、新チームに切り替わってからの1・2年生の活躍も耳に届いています。記録的な猛暑のなかで、本当によく頑張ったとすべての生徒をねぎらいたいです。

また、今年はオリンピックイヤーの夏休みでしたので、夜遅くに放映される日本選手の活躍をリアルタイムにテレビ観戦し、寝不足になった生徒も多かったのではないのでしょうか。惜しくもあと一步のところで負けを喫した種目もありましたが、多くの人々の感動を呼びました。結果的には、海外開催でのメダル獲得数が過去最多の45個という素晴らしい成果をあげてパリ・オリンピックは幕を閉じました。

それらのメダリストのなかには、周囲から見ると素晴らしい成績であっても、自身の目標を達成できなかった悔しさで心から喜べない選手がいます。このような選手は、他者の評価だけから自身のオリンピックでの取組を評価するのではなく、自分にしか分からない独自の価値観で自分を見つめ直しているのではないのでしょうか。

私たちは、他者の評価を気にしてしまう傾向があります。しかし、他者の意見に惑わされずに、自分自身がよいものとして認めるものを追求し、自己実現に向けて努力を続けることが大切です。

8月12日の神戸新聞「正平調」で、姫路市埋蔵文化財センターで開かれている企画展「推(お)し展」について、以下のように紹介されていました。

…(略)…◆お城や骨、石垣、埴輪(はにわ)ー。幅広い人たちに考古学への興味を持ってもらおうと、普段発掘調査を行う専門職員5人が、さまざまな分野の推しを文章や写真などのパネルでアピールする◆職員の一人、山下大輝さんは「瓦推し」。小学生の頃、東大寺境内に落ちていた古代の瓦を見つけた出会いの話を紹介し、中世の城の瓦に残る痕跡から、作業する人の営みを読み取る魅力などを挙げる◆夏休みも半分過ぎた。将来について考える子どもたちにこそ展示を見に行ってもらいたい。子どもの頃、将来仕事にできるほどの推しを見つけた人々の情熱を、きっと感じられるはずだ。

在りたい自分を見つけ、より自分らしく生きていくためには、自分自身がもつ価値観に目を向け、高めていくための努力が必要です。

さあ、山陽中学校での2学期がスタートしました。山中生一人ひとりの健闘を期待しています。